

## 充実の日々



桜花爛漫、花粉症さえなければ、とてもよい季節です。さて新入生のみなさん、生物学が好きな方は桜の自家不和合性について調べてみてください。また文学に関心がある人は『山家集』（西行）や『花吹雪』（太宰治）などに目を通されてはいかがですか。美術工芸を志すならば夜桜蒔絵とか花筏はどうでしょう。図書館には、幼児向け紙芝居から指定文化財の古典籍まで、全国的に評価の高い蔵書があります。大学は、それぞれの専門に即して皆さんを鍛え上げる高等教育機関です。気を引き締めて、日々の課題に取り組まれることを願っております。

とは言え、大学はとても楽しいところでもあります。新しい仲間、多種多様な課外活動、お隣の大本山は広々として緑豊か、謹厳そうな顔つきの教員も話してみれば結構おもしろい人だったり、発見がいっぱいです。我が身を省みれば、この時期の友人が半世紀の付き合いに及び、学び舎の思い出は今も新鮮です。若い日は二度と巡ってきません。Juvenis est carior auro.（青春は黄金より尊い）とは千古の名言です。

さて、現代社会の変化はめまぐるしく、先端技術もあっという間に古びてしまう時代です。今日に生きる私達は、勿論この急激な変化を無視出来ません。特に自然科学の領域では、新分野の開拓を模索し、最新高度の研究を行い、その成果を教育や医療の現場へ還元することが強く求められています。時代の要請に応える個別領域の専門性を身につけられるよう、みなさんはここで学びます。

しかし他方、専門性が持つある種の狭さ、あるいは新しい技術に取って代わられる危うさを克服補完するところの、幅広い思索と知識や柔軟で汎用性のある対応力、さらには深い人間的洞察や文化への理解を育てることも大切です。これらは、主として人文科学が担うところと言えるでしょう。本学は、自然科学・人文科学の研究教育を兼備する、小規模ながらも誇りある複合大学です。充実した施設と学界第一線の教員とが、みなさんを歓迎します。

まだ大切なことがあります。失ってはならない普遍的基本的な指針です。学問において、知的な誠実さ・事実の尊重・明晰な論理などは、いつの時代どの分野でも尊重すべき事柄です。そしてさらに大きい不変の理念があります。本学は大本山總持寺を設立母体とし、太祖瑩山禅師のみ教えに基づいた建学の精神「大覚円成 報恩行持」を高く掲げています。古風でわかりにくい、と思われるかもしれませんが、私流に言い換えて「学問を通しての知的鍛錬と円満な人格形成によって、社会貢献を果たす」と申すならば、理解していただけるでしょう。変化が軽薄なものとならず、移りゆく時代に的確な対応をするためにも、しっかりとした根底、ゆるぎない理念が必要となります。

キャンパスにも街にも桜が咲き白い、みなさんを祝福しています。ようこそ鶴見へ。大学での日々が充実したものとなりますよう、心から期待します。Carpe diem.（その日その日の花を摘め）

令和8年4月4日  
鶴見大学・鶴見大学短期大学部  
学長 高田 信 敬

